

主筆 牧野富太郎

植物研究雜誌

第五卷 第二號

(通卷第
三十八號)昭和三年二月二十八日
東京 津村研究所 發行

○我日本ニ於テ學界ニ興味ヲ與ヘシ植物發見ノ略史

牧野 富太郎

實ニ我日本ハ植物ニ惠マレタ國デアツテ其種類ノ多イ事ハ他國ニ比シテ殆ンド遜色ガナイト謂ツテモ決シテ誣言デハアルマイ、亞細亞大陸ノ東ニ沿フテ地形ガ蜿蜒ク長ク南北ニ委蛇シテ居ルカラ北ハ寒ク南ハ暑ク其間ニ幾多ノ島嶼ガアツテ南カラハ暖キ大潮流ニ洗ハレ氣中ハ濕氣ニ滿チ國內ニハ高低ノ山岳連互シ水脈縱横シ湖沼點綴シ海陸出入多ク國中到ル處草木ノ繁茂シナイ處ハナク、ソシテ沙漠ノ様ナ荒レ果テタ不毛ノ地ハ一向ニ見當ラナイ、是レニ由テ之レヲ觀レバ我日本ハ實ニ天來植物學ノ勃興發達セネバナラヌ土地柄デアルト謂ヘル

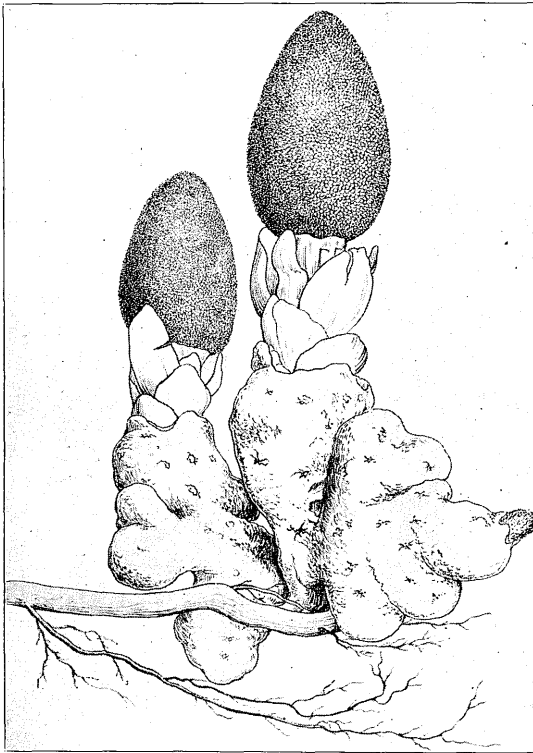
タゞ生エテ居ル植物ノ分量ガ單ニ多イト言フノデハナイ、中ニ種々ナル珍種奇品ガアツテ今日マデ發見セラレテ居ル數モ中々ニ饒イ其レヲ今一々詳ニ此ニ舉グル事ハ容易デナイガ其中ニ就テ最モ世ニ誇ルニ足り且ツ斯學界ニ取リ頗ル重大ナ性質ヲ帶ビタ者ニ就テ聊カ明治維新前後以來ノ其發見ノ略史ヲ叙述シテ見タイト思フ

先ヅ第一ニ書カネバナラヌ事ハ植物學者ノ田代安定君(薩摩出身)ノ爲シタ業績デアル、明治ノ初年當時博物局ニ在勤シテ居ラレタ同君ニヨツテめひるゑ (Kandelia Rheedii W. et A.) をひるゑ (Bruguiera gymnorhiza Lam.) やへやまひるゑ (Rhizophora mucronata Lam.) ちぢらばな (Barringtonia racemosa Bl.) はぢらんちやう (Myoporum bontoides A. Gray.) やちやう (Helicia lancifolia S. et Z.) へんぐゑんちやう (Flagellaria indica L.) たぬさあやめ (Philydrium lanuginosum Banks.) ナドノ諸品種ノ標品ガ採集セラレ從テ其植物ガ

我日本ニ於テ學界ニ興味ヲ與ヘシ植物發見ノ略史

能ク的辨セラレタ爲メニ此ニ我邦產トシテハッキリひるる科 (Rhizophoraceae) ちがりばな科 (Leechthidaceae) はまぢんちやう科 (Myoporaceae) やまもがし科 (Proteaceae) とつゝるもふち科 (Flagellariaceae) 并ニたぬあやめ科 (Philydraceae) ノ諸科ガ認メラル、ニ至ッタ

明治十六年(今カラ四十五年前)デアッタ、時ノ東京大學ノ御用掛大久保三郎君(植物學教室勤務、後チ助教授

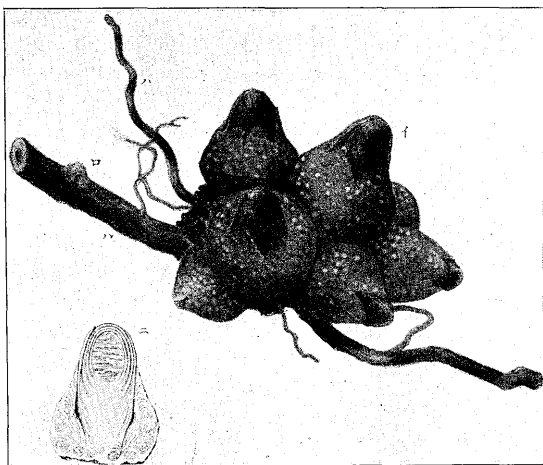


明治十六年晩秋土佐高岡郡尾川村大元ニ採リテ予ノ寫生セル
つちとりもち (*Balanophora japonica* MAKINO.) ノ原圖ヲ
複寫セル者(縮寫)

トナッタ、大正三年五月二十三日逝去)ガ伊豆ノ天城山デーノ珍ラシイ寄生植物ヲ見付ケタ然シ其レハ極嫩イ者ダッタノデ其種屬ハ能ク判ラナイガ此レハ *Cytinaceae* 一名 *Rafflesia*-*ceae* ノ科ニ屬スル者デアルコト蓋シ疑ヲ容レズト大久保君ハサウ言ッタ、乃チ其彩色寫生畫ト記事トヲ當時大學デ發行シツ、アッタ『學藝志林』第七十七冊ニ掲載シタ(次頁ノ寫照)然シ其レハ疑モナクつちとりもち屬ノ一種(多分みやまつちとりもち)デアッタ決シテラフレシア科ノ者デハナカッタ其前後頃ニ私ガ土佐デ採ッタつちとりもちノ標品ヲ大學ヘ送ッ

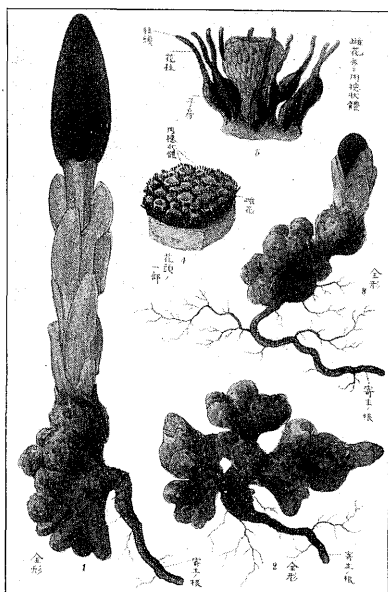
我日本ニ於テ學界ニ興味ヲ興ヘシ植物發見ノ略史

メテつちとりもち科 (Balanophoraceae) ガ確定セラレタ、尤モ此屬ノ植物ハ徳川時代ニ既ニ知ラレテハ居タガ其學問上ノ研究ハ丸デ出來テ居ナカッタ其レ故『質問本草』ノ蛇菰デモ『本草通串證圖』所載ノ者 (此レハ蓋シみやまつちとりもち) デモ一向ニ其レガ何ノ種屬ニ屬スル者ヤラ全ク五里霧中ニ在ッタノデ誰レモソレガ *Balanophora* 屬ノ物デアルト氣付イタ者ハ一人モナカッタ



明治十六年六月十六日伊豆天城山ニ於テ大久保三郎君ガ見出
採集シタつちとりもち屬 (*Balanophora*) ノ一種、多分みや
つちとりもち *B. nipponica* MAKINO.) ナラン

(明治十六年十二月發行ノ學藝志林第七十七冊ヨリ縮寫)

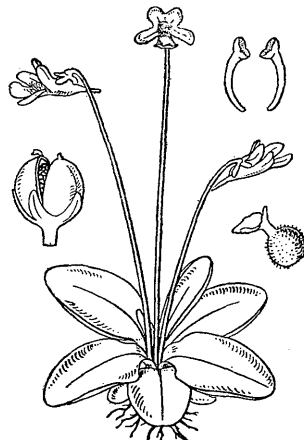


みやまつちとりもち
(*Balanophora nipponica* MAKINO.)

タ即チ是レガ同大學デ完全ナ同植物ノ標品ヲ得タ始メデア
ル、又其レノ寫生圖ヲ東京博物館ニ送ッタ、後ニ私ハ此つ
ちとりもちニ *Balanophora japonica* MAKINO. ノ新學名ヲ下
シタ、此ク此植物ガ學問上判然スルニ從ッテ我ガ日本ニ始



かうしんさう
(*Pinguicula ramosa* MIYOSH.)



むしとりすみれ
(*Pinguicula vulgaris* L.)

(牧野寫生)

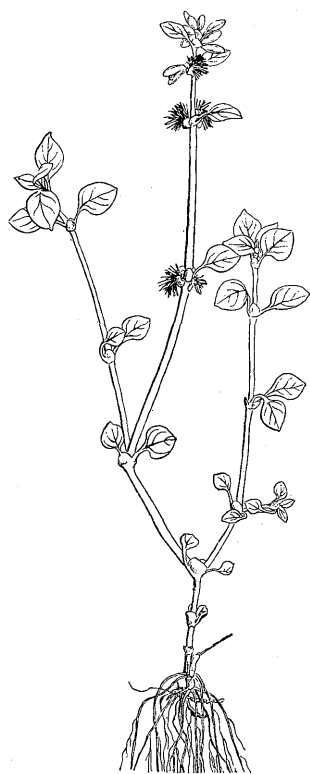
(牧野寫生)

同ジク明治十六年ニひなのしゃくぢやう(私ノ命名)ヲ土佐ノ我郷里佐川デ採集シタ次デ其後同ジ土佐ノ他處デ採ツタ同種ノ標品ヲ露國ノ MAXIMOWICZ 氏ニ送ツテ始メテ *Burmmania japonica* MAXIM. (同氏ハ命名シタノミデアツタカラ後私ガ其レニ記載文ヲ附ケテ發表シテ置イタ)ノ新學名ヲ得タ、然シ此植物ヲ始メテ我邦デ發見シタハ時ノ東京大學教授ノ矢田部良吉君デアツテ同君ハ其レヲ武州ノ白子デ採集セラレタ時ニ明治十三年九月十九日デ今カラ四十八年前ノ事デアル(本誌三ノ五頁參照)、其時分ニハ其植物ノ所屬ナドモ一向ニ研究ガ出來テ居ナカッタガ前述私ノ採集品デ其邊ガ明瞭トナリ、ソシテ始メテ我邦ニひなのしゃくぢやう科 (*Burmmaniaceae*) ガ加ハルニ至ツタ、其後更ニ此科ニ屬スル外ノ種類ガ明ニナツタ

明治十七年ニハたぬきも科 (*Lentibulariaceae*) ノむしとりすみれ即チ *Pinguicula vulgaris* L. ガ邦產トシテ我學界ニハツキリシテ來タ、然シ本品ハ疾ク既ニ徳川末葉時代ニ邦内デ發見セラレテ居タニ關ハズ當時ノ學者間ニハ餘リニ其印象ガ淺カッタガ上ノ年ニ東京大學デ珍シク之ヲ信州戸隠山デ採集シタ以來食蟲植物ノ一奇品トシテ遽ニ吾人ノ注意ヲ惹クニ至ツタ、更ニ今一ツ同屬ノ珍種ガ同二十三年ニ三好學博士ニヨリ野州庚申山デ發見セラレ乃デ庚申さうノ新和名ト *Pinguicula ramosa* MIYOSH. ノ新學名トガ發表セラレタ、

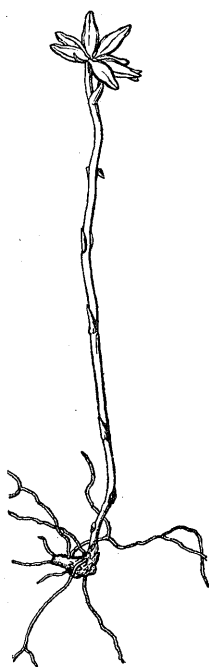
我日本ニ於テ學界ニ興味ヲ興ヘシ植物發見ノ略史

タ、此屬ノ者ハ世界ニ於テ唯三種即チ歐洲ニ一種、支那ニ一種、ソシテ我邦ニ右ノ一種ヲ産スルノミデア
次ニ明治二十一年頃みどはこへ(後チ *Elatine orientalis* MAKINO. ノ學名ガ定メラレタ)ガ明カニナツテみどは
こへ科 (*Elatinaceae*) ガ判然ト我邦ニ成立シタ、尤モフランシニ、サウハチエノ目錄ニハ既ニ載ツテハ居ッタガ



やま と ぐ さ
(*Cynocrambe japonica* MAKINO.)

(明治十九年土佐デノ採集品ヲ予ノ寫生セシ者)



ひなのしゃくぢやう
(*Burmannia japonica* MAXIM.)

(明治十六年八月土佐高岡郡佐川町吉田屋敷
奥ノ丘陵陰地ヲ採リシ者ヲ予ノ寫生セル者)

本品ハ花梗ノ兩岐スル特徴ヲ有
スル

同ジ明治十七年ニ私ハ始メテや
まとぐさ(私ノ下シタ和名)ヲ土
佐デ採ツタ其翌々年ニ渡邊莊兵
衛(後チ協ト改名)君ガ花ノ標品
ヲ送ツテ呉レタノデ始メテ能ク
其植物ノ研究ガ出來タ、私ハ始
メ大學植物學教室ノ大久保三郎
君ト其學名ヲ *Thelygonum japo-
nicum* OKUBO ET MAKINO. トシ
テ發表シタガ後チ其ノヲ *Cyno-
crambe japonica* MAKINO. ト
改メタ、此珍艸ノ發見ニヨツテ
始メテ我日本ニやまとぐさ科
(*Cynocranbaceae*) ヲ見ルニ至ッ



みぞはこべ
(*Elatine orientalis* MAKINO.)
(牧野 富生)

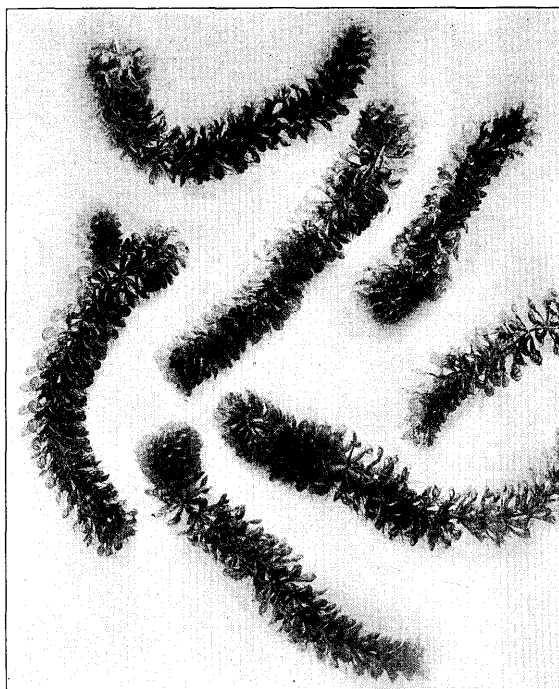
其能ク判明シタノハ此時分デ私ガ再ビ其ノ標品ヲ採集シテ其委曲ヲ明ニシタノデ確實ニナッタ

次ニ明治二十三年ニむじなもガ發見セラレタノハ正ニ晴天ノ霹靂ノ觀ガアッタ、私ハ其年ノ五月十一日ニやなぎノ實ヲ採集センガ爲メニ單身東京ヲ東ニ距ル三里許ノ南葛飾郡小岩村伊豫田ニ赴イタ、江戸川ノ土堤内ノ田間ニ一ノ用水池(其後埋メテ)ガアツテ其周圍ニやなぎノ類ガ蔚ツテ其小池ヲ蓋フテ居タ、私ハ其やなぎノ樹ニ倚リ掛ツテ其枝ヲ折リツ、不圖下ノ水面ニ眼ヲ投ゲタ刹那異形ナ者ガ水中

ニ浮ンデ居ルヲ見タノデ早速之レヲ採ツテ見タラ誠ニ見慣レヌ一ノ水艸デアッタ勿々歸テ大學ノ植物學教室(謂ユル青長屋ノ)ニ持行キ同室ノ人々ニ此珍物ヲ見セタ所皆々コレハト驚イテ居タ、時ノ教授矢田部良吉君ガ其レハ書物ノ中ニ思ヒ中ル者ガアルトテ直ニ其學名ヲ鉤出シテ吳レタノデ其レガ世界デ有名ナ *Aldrovanda vesiculosa* L. デアル事ガ分ツタ此植物ハいしもちやう科 (*Droseraceae*) ニ屬シサウ世界ニ澤山ナク當時ハ僅ニ歐洲ノ一部、印度ノ一部、濠洲ノ一部ノミニ知ラレテ居タ、日本ニ發見セラレタ後ニ更ニ西比利亞東部黑龍江地方ノ一部、朝鮮并ニ滿洲ニモ發見セラレテ世界ノ產地ハ都合七箇處トナツタ、即チ此著名ナ水艸ガ斯克我日本ニモ發見セラレタ事ハ頗ル興味ノ深イモノガアル私ハ其當時むじなもノ新和名ヲ其レニ命ジタ

右ノむじなもト前後シテひしもどさ (こさ科 *Pedaliaceae*) ガ漸ク判明シタ、其果實ノ形態ガ變ナノデチヨツト見當ノ附キ兼ネル水草デアッタガ其レガ隣邦ノ支那ニモ産スル *Trapella sinensis* Oliv. デアル事ガ分ツタ、其時分ニ伊藤篤太郎君ガ是レハ *Trapellaceae* ト云フ新科ヲ建テ得ベキカモ知レント話シテ居ラレタ

次ニ明治三十五年ニほんがうさうガ發見セラレタノデ始メテほんがうさう科 (Triuridaceae) ガ我邦ニ殖エタ、此レハ始メ伊勢國三重郡楠村ノ本郷デ寺岡、今井、植松ノ三君ガ採集シタ其標品ヲ私ガ研究シテほんがうさうナル紀念新和名ト *Sciaphila japonica* MAKINO. ノ新學名トヲ發表シタ、全體紫色ノ小艸デ葉ハ無ク生エテ居ル狀態ハ植物トモ思ヘヌ程奇異ナ者デアアル多分菌根植物ノ一デアラウト想フ、次デ時久芳馬君ガ土佐デ又同屬

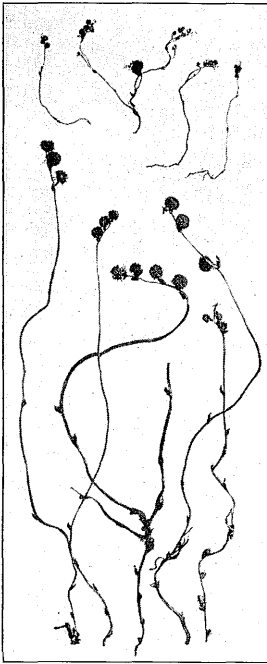


水中に浮游セルむじなも (*Aldrovanda vesiculosa* L.)

(山城久世郡巨額池ノ者 昭和二年九月島田玄彌君撮影)

ノ一種ヲ採ッタ私ハ之レヲ檢シテ其レニ *Sciaphila tosaensis* MAKINO. ノ新學名トトキヒタラウ一名ウゑまつさうノ新和名トヲ下シタ、此科ノ諸品ハ皆熱帶地ノ産デアアルガ右ノ二新種ヲ我邦ニ得タノハ此科ノ分布上頗ル興味ガアル

次ニ右ノ翌年即チ明治三十六年ニさくらゐさうガ發見セラレタ、當時東京博物館ノ天産課ニ在勤セラレテ居ッタ櫻井半三郎君カラ同君ガ美濃ノ惠那山附近デ得テ來ラレタ其標品ヲ惠マレタノデ私ハ早速之レヲ研究シテ其レガ紛フ方ナキ一ノ新品デアアル事ヲ認メタノデ之レヲ美濃出身ノ三好學博士ト採集者ノ櫻井君トニ「デデケート」スル意味デ新屬 *Miyoshia* ヲ建テ *Miyoshia Sakurain*



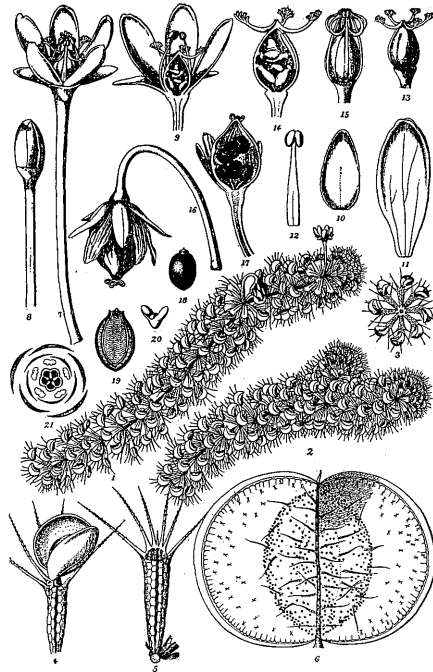
(上) ほんがうさう (*Sciaphila japonica* MAKINO.)

(紀伊西牟婁郡田村ニテ大正四年八月二十
二日宇井縫藏君ノ採集セシ者ヲ撮影)

(下) ときひささう一名うゑまつさう (*Sciaphila tosaensis* MAKINO.)

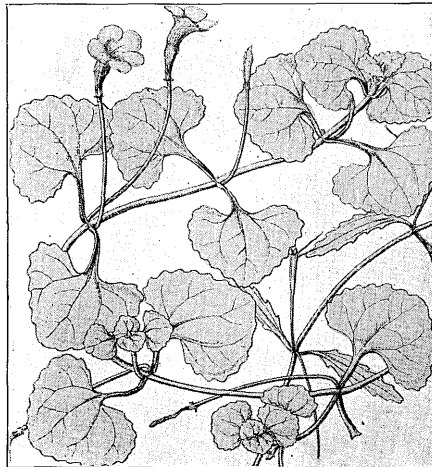
(同 上)

MAKINO. ト云フ新學名ヲ發表
シタ、然シ不幸ニシテ間モナク
其レガ馬來産ノ *Profolium* 屬
一名 *Petrosavia* 屬ト同屬ノ品
デアル事ヲ認メタノデ止ムヲ
得ズ私ハ其學名ヲ *Profolium*
Miyoshia-Sakuraii MAKINO. ト



むじなも (*Aldrovanda vesiculosa* L.)

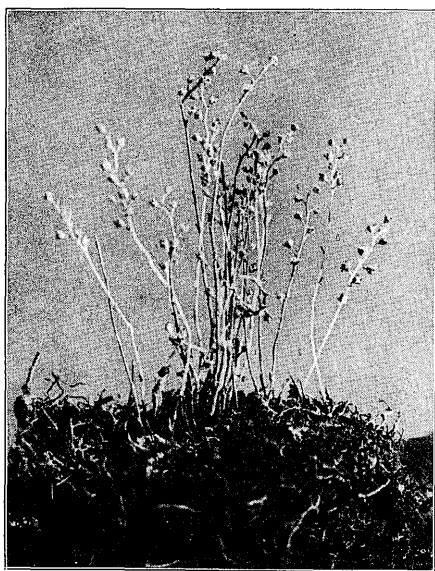
(武州小岩村伊豫田ノ産品ニ就キ牧野寫生)



ひしもどき (*Trapella sinensis* OLIV.)

(T. 總乳間ニ採リシ者 牧野寫生)

ナシタガ更ニ之レヲ *Petrosavia Miyoshia-Sakuraii* MAKINO. ト改メタ、私ハ此植物ノ形態並ニ花ノ構造ナド頗ル奇拔ナ點ガアルノデ其科ヲ定メルニ困難シタガ泰西ノ學者ハ之レヲゆり科 (*Uliaceae*) ニ收メテ居ル、然シ私ハ其科ニ例ナキ其寄生様ノ菌根植物デアアルノト其子房ガ半下位ヲ成シテ居ル狀態ナドカラ推シテ或ハ此レハ當サニゆり科ノ外ニ一ノ獨立ノ科ヲ建テ得ベキモノデアラン歟ヲ豫想シ、始メ *Miyoshiaceae* ヲ建テントシテ見タガ後チ之レヲ *Protoliriaceae* 又ハ *Petrosaviaceae* ノ科名ニ變更シタ事ヲ記シテ置イタ、屬中ノ二種一ハ馬來一ハ日本其分布ノ具合ガ面白イデハナイカ



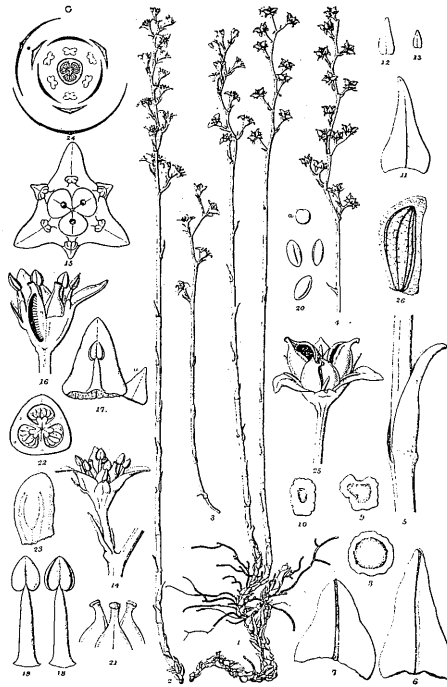
美濃可兒郡久々利村ニテノさくらぬさう
(*Petrosavia Miyoshia-Sakuraii* MAKINO.)

(加藤新市君調製ノ繪はがきニ據ル)

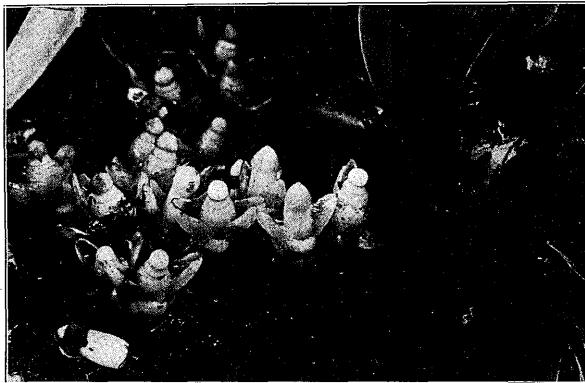
次ニ明治四十年ニやつこさうガ發見セラレタ、やつこさうハ形チ頗ル奇態ナ寄生植物デシヒノ根ニ生ジテ居ル、新ニ土佐ノ南方デ見付カリ後チ九州ノ南部ニ多ク生ズル事ガ分リ近年又琉球ニモ産スル事ガ知レタ、尙南シテハ臺灣ニ入り其レガたいわんやつこさう (Var. *Kawa-Sasakii* (HAYATA) m.) 並ニひしがたやつこさう (Var. *Kanehirai* (YAMAMOTO) m.) ノ二變種ト成ッテ居ル、發見當時土佐ニ居ラレタ山本一君カラ土佐デ採集シタ標品ヲ受ケ取ッタ後私ハ之レヲ研究精査シテ確カニ其レガ新屬新種デアアルコトヲ認メ *Mitastemon Yamamotoi* 屬新種デアアルコトヲ認メ *Mitastemon* *Yamamotoi* MAKINO. ナル新學名並ニやつこさうナル新和名ヲ發表シタバカリデナク其レガ *Mitastemonaceae* 即チやつこさう科ナル新科、尙ホ其レノミナラズ其レガ *Mitastemonales* 即チやつこさう群ヲ形成スベキ事ヲ提唱シタ、

我日本ニ於テ學界ニ興味ヲ興ヘシ植物發見ノ略史

人ニヨツテハ之レガラフレシア科 (Rafflesiaceae) ノ者デアルト謂ツテ居レドモ私ハ尙ホ自説ヲ固守シテ居ル、
ソシテ是レハ今一度能ク精密ニ研究スル餘地ガ充分アルト信ズル、其子房ガ全然上位デアル事ト其葯ガ縱裂セ
ズニやどりぎ (Viscum) ノ葯ノ様ニ多數ノ花粉竈ヲナシテ居ル事



さくらゐさう (*Petrosavia Miyoshia-Sakuraii* MAKINO.) (牧野寫生)

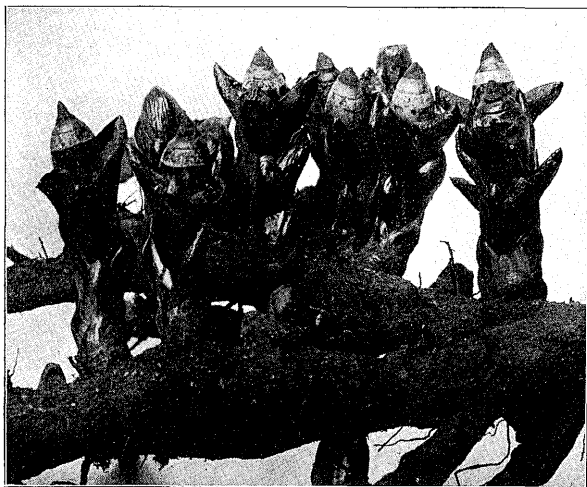


薩摩國日置郡東市來村ナル向湯田ノ稻荷神社境内ニヤっこさう (*Mitrastemon Yamamotoi* MAKINO.) ガ群生セル自然ノ狀態

(大正十一年十一月十九日 木村有香君撮影)

ナド注意スベキ點デアル、此やっこさうハ土佐ガ最初ノ發見地カ
ト云フト決シテサウデハナク其レハ疾ク既ニ明治十五年頃ニ田代安定君ガ大隅國田代郷ノ山地デ發見セラレテ

居リ其レガ同君著『鹿兒島柑橘圖』稿ノ終リニ無名ノマ、ニ圖載セラレテ居ル、然シ其レニハ誰モ氣ガ附カズ私
モ亦後ニ始テ之レヲ見タノデアアルガ其時ニハ既ニやつこさうノ命名ヲ濟シテ之レヲ發表シタ後デアッタ若シ其



日向國內海在ニテ採集セルやつこさう (Mitrastemon

Yamamotoi MAKINO.) ノしひノ根ニ寄生セル狀

(大正七年十一月菊池明弼君撮影)

レツ、在ッタ姿ガ今モ尙ホ眼前ニ新ラシイ、此かはごけさうハ今村君ノ名ト共ニ永久ニ世界ノ學界ニ輝クデア

ヲ傳フベキ記念名ヲ付ケタモノヲ誠ニ惜イ事ヲシタ
次ニ最近吾人驚異ノ目ヲ瞠ハルかはごけさうガ發見セラレ
タ、此レハ昨年即チ昭和二年ノ秋薩摩國川内川^{センダイガハ}デ始テ京都
帝國大學ノ今村駿一郎理學士ガ發見採集シタ者デ彼ノやつ

こさうニ次デノ近來ノ大收獲デアアル、其レガ舊日本ノ九州
デ見付カリ且ツ其科ノ諸植物ハ尋常一様ナ形態ノ者デナク
皆各々一癖アル奇拔ナ狀貌ヲ具ヘタ者デアアルカラ殊ニ各人
ノ興味ヲ唆ルニ充分デアアル、今此ニ始メテ Podostemon-
aceae (かはごけさう科) ヲ我日本ノ地ニ見ルニ至リ此かはご
けさうノ發見ハソレユエ一齊ニ學者ニどよめきヲ與ヘタ、
今村君ガ今回此大手柄ヲ爲タノハ同君ノ爲メニモ京都帝國
大學ノ爲メニモ又我學界ノ爲メニモ吾人ハ之レヲ祝福セザ
ルヲ得ナイト思フ、私ハ此奇草ノ標品ヲ見ル毎ニ今村君ヲ
想ハヌ事ハナイ、私ハ昨秋京都大學ノ植物學教室デ今村君
ガ教授郡場寛博士ノ許デ孜孜トシテ此新品ニ就テ研究セラ

我日本ニ於テ學界ニ興味ヲ興ヘシ植物發見ノ略史

ラウガ、私ハドウイフ譯カ今村君ノ此かはごけさう研究ニ對シ其間私カニ同情ヲ禁ジ得ナイ或ルモノガ私ノ心ニ潜ンデ居ル事ヲ自白シタイ、今村君！名ハ實ノ實ナル事ヲ悟ツテ其實ヲ著ハスニカムルノガ肝要デアル、學界ハ決シテ其功績ヲ沒却シテ之レヲ顧ミナイ程審判ヲ誤ルモノデハナイ事ヲ私ハ保證スル

上ニ列舉シタ者ノ外ニ尙ホ種々ナ珍ラシク且ツ學問上興味ガアツテ又我邦ノ「フロラ」ニ對シテモ重要ナ植物ノ發見セラレタ者ガ頗ル多イ、領土臺灣デハ其レガ爲ニたうゑんたう科 (Xyridaceae) とうとうぢめ科 (Commataceae) たかぢこのぢ科 (Sanydaceae) つりばりかづら科 (新稱) (Ancistrocladaceae) ナドヲ見ルニ至ツタ、今其諸品ヲ一々此ニ舉グル暇モナイノデ其レ等ハ態ト省略スルガ此様ニ我日本ハ實ニ植物ガ豐富デアルカラ之レカラマダドンナ珍物ガ出ルカ分ツタモンデヤアナイ、前ニ掲ゲタ者ハ皆顯花植物方面ノ者バカリデアルガ隱花植物ノ方面ハ其開拓スベキ部門モ廣ク且ツ其種類モ無數デアルカラ其中カラハ屹度内外學者ノ目ヲ歛テシメル奇品珍種ガ踵ヲ接シテ發見セラレ得ベキ事其レハ何時デモベタト大鼓判ヲ捺シテ請合ツテモヨイ、誰レカ此扉ヲ開ク鑰ヲ持ツ者ゾ、吾レト思ハン人々ハ向フ鉢卷キ襷掛ケ見渡ス限リノ好戰場ニ打ち入ツテ群ガル敵ヲ驅ケ惱マシ目星シイ首級ヲ舉ゲルニ努メヨヤ、學界ニ一廉ノ功名ヲ顯ハサントスル人々又ハ學位ナドニ憧憬ガレル輩ハ吾レ先キニト馳セ參ジテ功名手柄ヲセヨヤセヨヤ

ソシテ終イニ我邦顯花、隱花兩界ノ植物ヲ研究シ盡シテ此ニ光輝アル完全無缺ナ大日本帝國ノ「フロラ」ノ大著ヲ完成スレバソコデ始メテ吾人ハ大觴ヲ舉ゲ滿ヲ引イテモ差支ハナイガ今日ハマダ小杯ヲダモ手ニスル勇氣モナイ、前途遼遠チットモ憂フルニ足リナイ、之レヲ短縮シテ早く成功ヲ見ル、要ハタゞ各人ノ努力次第!!! ソシテ一日モ早く千秋樂ノ幕ヲ閉ヂ東洋ノ表ニ此天產ノ一大寶庫ヲ有スル美國ノアル事ヲ世界ニ顯彰セヨ

【補】すゐなも (Hippuris vulgaris L.) ハ歐洲北米等デハ敢テ珍シイ植物デハナイガ我邦デハ稀有ノ一種ト謂ツテモヨイ一水草デアル、フランシエ、サヴハチエノ日本植物總目錄下卷公刊ノ時即チ我明治十二年ニハ尙此植

物ノ我邦ニ産スル事ハ不明デアッタガ其後間モナク宮部金吾博士ニヨリ最初ニ之レガ北海道デ見出サレタ、同君カラノ標品ガ東京ノ大學ニ來テ此ニ始テ此植物ノ學名ト和名トガ明治十九年出版帝國大學編纂ノ『帝國大學理科大學植物標品目錄』ニ掲出セラレタガ其和名ハ多分宮部博士カ松村任三博士カガ付ケタノデアラウ、本品ハ久シクありのたふ科 (Haloragaceae) ニ在籍シテ居タガ今日デハすぎなも科 (Hippuridaceae) ナル獨立ノ科ノ者ト成ツテ居ル、該植物モ亦明治年間ニ始テ我邦ニ在ルト知レ且一科ノあるジト成ツテ居ル者ノ一デアル

【序ニ曰フガ】我日本デ自然分科ノ科名ガ始テ整頓セラタノハ明治五年デ其仕事ヲ爲タノハ其時博物局ニ居ラレタ同局天產部中心ノ人物田中芳男先生デアッタ、即チ其レガ同先生著ノ『埵甘度爾列氏植物自然分科表』デアアルガ此表ハ明治八年ニ訂正セラレタ、當時ハ博物局ガ文部省ニ屬シテ居タ頃デ之ヲ同局デ出版シタ、此表ノ公刊セラレル迄ハ我邦デハタバ植物界ヲ二十四綱ニ別テル林娜斯氏ノ人工分類法ガ行ハレテ居タニ過ギナカッタ、天保六年 (四年デ) 發行ノ宇田川榕菴著『植學啓原』ノ引ニ百綱譜 (田中芳男先生ノ記スル所ニヨル) ノ名ガアレドモ遂ニ世ニ公ニハナラナカッタ、田中先生ハ右ノ表ヲバルフオーア氏ノ植物學書 (同氏ノクラッスブック、オプ、ボタタニ) カ爾書ノ内何レカニ據ツタモノダカ多分ソレハ「マニユアル」ノ方デアラ (田中芳男先生ノ自然分類デアル) ノ名ガアレドウト思フ、此書ハ現ニ博物館ノ圖書中ニ存在スルガ「クラッスブック」ノ方ハ無イ) ニ基イテ製セラレタモノデ其科名ヲ譯スルニ當テハ始テノ事デハアリ相當ニ苦心セラレタ事ガ其表ノ緒言ニ見エテ居ル、然シ其 Family (其時分ニ) ラ科ト譯シタノハ其レハ田中先生ノ創意デハナク此レハ支那デ咸豐七年 (今カラ七十八年前) ニ開雕ニナッタ『植物學』ニ基イタモノデ同書卷ノ八ニ分科ノ項ガアツテ其處ニ科ノ名ガアル、即チ同書ニハ繖形科、石榴科、繡球科、麥科、菊科、唇形科、淡巴菰科、橄欖科、實大功勞科、薔薇科、梨科、梅科、豆科、肉桂科、紫薇科、胡椒科、大黃科、橘科、葡萄科、罌粟科、玉蘭科、蓮科、荔枝科、木繭科、十字科、瓜科、胡桃科、栗科、桑科、麻科、楊柳科、松柏科、水仙科、薑科、芭蕉科、五穀科ノ三十有六科ガ舉ゲラレテ居ル、此書ハ漢文デ書キ内長、外長、上長、通長、細胞、聚胞體、心皮、子房、胚珠、無胚子ナドノ術語ハ皆此書カラ出テ居ル、我邦デハ慶應三年ニ下野足利ノ求道館 (私立學校ノ名カ) デ本書ヲ翻刻發行シタ事ガアッタ (此書ヲ足利ノ求道館デ出版シタ事實ハ私見シタモノデ其詳説ハ他日公ニスル)